

NEWS RELEASE

2022年5月30日

報道関係者各位

2030年度「プラスチック廃棄ゼロ」目標策定 紙パックを採用した環境配慮商品を軸に脱プラスチック加速

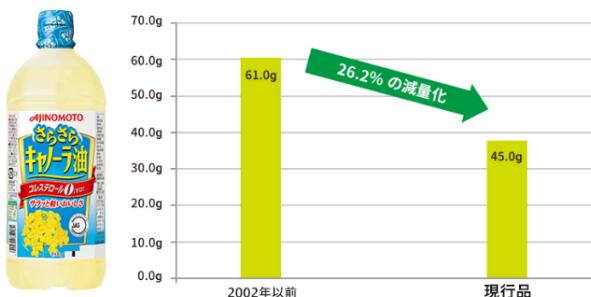
株式会社 J-オイルミルズ（東京都中央区、代表取締役社長：佐藤 達也 以下当社）は、2030年度までにプラスチックの廃棄量をゼロにする目標（※1）を策定しました。プラスチックの使用量を必要最小限に抑え、再生技術の導入・拡大や、企業間連携による再生技術開発の取り組みにより、目標の着実な達成を目指します。

■目標策定の経緯

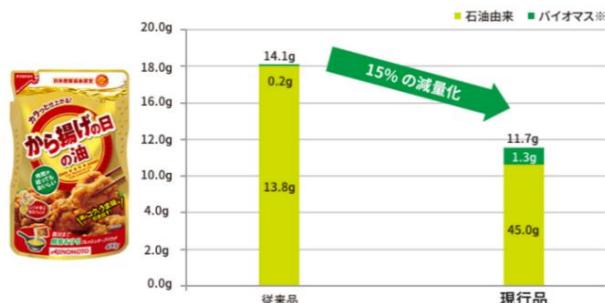
当社は2021年、プラスチックの廃棄量を2030年までに2000年度比で25%削減する目標を定め、達成に向けさまざまな取り組みを実施してきました。今年4月にはプラスチックに係る資源循環促進等に関する法律が施行されており、当社は海の環境汚染や気候変動の原因となるプラスチックごみの削減に向けてこれまで以上に取り組みを進めるため、目標を上方修正しました。

■これまでの取り組み

脱プラスチックに向け、これまででは主に容器・包装の軽量化を通じて取り組みを進めてきました。家庭用の代表的な製品 **JOYL AJINOMOTO さらさら® キャノーラ油** などに使用されている「1000gエコボトル」では容器を2002年比で26%軽量化するなど、各容器のプラスチック使用量を段階的に削減しています。2018年には「容器包装に関する指針」を定め、次世代型の素材や容器の開発を通じて地球環境により配慮した企業活動を推進していくことを掲げました。



1000g エコボトルのボトル重量推移


※サトウキビ由来の植物性プラスチックを透明高耐候性PET膜とLLDPE膜の一部に採用し、石油由来プラスチックの削減をおこなっています。

400g フレッシュキープパウチ パウチ重量と石油由来プラスチック量推移

■目標達成に向けた取り組み

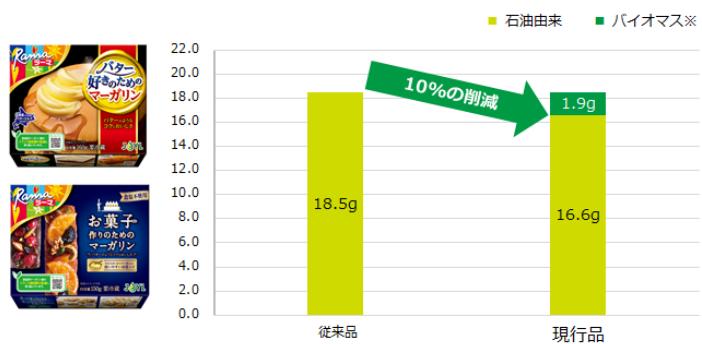
「プラスチック廃棄ゼロ」達成に向けた重点施策の一つが環境配慮型商品「スマートグリーンパック（SGP）」シリーズの拡充です。同シリーズは油脂商品では珍しい紙パックを用いており、従来の同容量帶

容器と比較してプラスチック使用量が60%以上少なく、CO₂排出量を26%以上削減すると推計されています（当社計算）。2021年8月にキャノーラ油とごま油の2油種を先行発売し、今年3月にはエクストラバージンオリーブオイル、こめ油、大豆油の3油種を追加しました。生活者からは「容器の処分が楽」「プラスチックごみを減らせる」、流通・小売関係者からもさまざまご好評の声をいただいており、今後は既存の油脂製品をSGPに順次切り替えていくことも視野に入っています。



「スマートグリーンパック」シリーズラインアップ
(キャノーラ油、大豆の油、こめ油、ごま油、エクストラバージンオリーブオイルの全5種類)

また石油由来の原料削減策としてバイオマス樹脂の採用も進めています。2019年には蒸着バリア技術を使ったパウチ容器にてバイオマス樹脂を採用しエコマークを取得しました。また2021年9月には「ラーマ®バター好きのためのマーガリン」と「ラーマ®お菓子作りのためのマーガリン」にてバイオマス樹脂を約10%使用した容器を採用しました。



※サトウキビ由来の植物性プラスチックを透明聚丙烯PET層とLLDPE層の一部に採用し、石油由来プラスチックの削減をおこなっています。

「ラーマ®バター好きのためのマーガリン」と「ラーマ®お菓子作りのためのマーガリン」 石油由来プラスチック量推移

さらにボトル用ラベルに使うインキについて、バイオマス原料を用いたインキの採用も順次進めています。

このほか、廃プラスチックの再利用や再生樹脂の活用をはじめ、企業間連携により再生技術開発を進めることなどを通じて環境に配慮した製品の開発・販売に取り組み、プラスチック使用・廃棄量を段階的に減らしてまいります。

国のまとめ（※2）によると、国内では年間約900万トンのプラスチックが排出され、このうち食品容器などに使う「包装・容器等/コンテナ類」は約400万トンを占めるとされています。河川などから海に流れ込んだプラスチックごみは長期間残り続けるため、地球規模での海洋汚染や生態系への影響が懸念されてお

り、対策は喫緊の課題になっています。

当社グループは SDGs（持続可能な開発目標）の目標達成に向けた取り組みを推進し、「環境負荷の抑制」をマテリアリティ（重要課題）の一つに位置付けました。毎年 5 月 30 日は「ごみゼロの日」、6 月は環境月間であり、一層の社内意識向上を図っているところです。今後も当社グループはプラスチック廃棄ゼロに向けた取り組みを進めるだけでなく、プラスチック廃棄物やごみ容積の問題、地球温暖化、環境汚染等、諸課題の解決に貢献し、食品メーカーの責務として、SDGs の目標「12 つくる責任、つかう責任」「13 気候変動に具体的な対策を」「14 海の豊かさを守ろう」の達成にも寄与してまいります。

（※1）プラスチック廃棄ゼロは、リサイクルされずに廃棄されるプラスチックごみを出さないことを意味しています。

（※2）農林水産省「食品産業におけるプラスチック資源循環をめぐる事情」（2018 年 10 月公表）

https://www.maff.go.jp/j/plastic/attach/pdf/pura_kaigi-3.pdf

＜本件に関する報道関係者のお問い合わせ先＞

株式会社 J-オイルミルズ コーポレートコミュニケーション部 広報・IR グループ

TEL : 03-5148-7103 E-mail : pr@j-oil.com